



“ 水短調の世界 ” 水短調の名曲を探る



プログラム

“ 調性 ” を特集するシリーズの第 6 回目は、水短調で書かれた名曲を集めてお聴きいただきます。

メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲は 35 歳の時の作品で、甘美な旋律と流麗で躍動感に溢れた曲調は洗練を極め、古今のヴァイオリン協奏曲の最高傑作のひとつに挙げられます。ショパンの作品は哀感に満ちた美しい前奏曲第 4 番、アンコール曲としても良く取り上げられる華やかさを持った遺作のワルツの 2 作品を。エルガーのチェロ協奏曲は 62 歳の円熟期に書かれた作品で、悲哀に満ちた豊かな詩情、チェロの特性を生かした緻密な作風はチェロ協奏曲の最高峰に位置する傑作です。バッハのフルート・ソナタ水短調は、1724 年に作曲されたとされる作品で、同時期にフルートのオブリガードを伴うカンタータを数多く作曲していたため、様式はそれと似ていると言われています。流麗な歌と活潑な力強さを持った名曲です。チャイコフスキーの交響曲第 5 番は 1888 年の作品で、第 1 楽章冒頭で現われる「運命の動機」が全曲を支配しています。憂鬱な物悲しさを持った独特の哀愁、美しい歌と力強い表現、変化に富んだ楽節など、魅力に溢れた名作です。今回は、水短調の名曲をたっぷりお聴きください。 (中川)

フェリックス・メンデルスゾーン (1809~ 1847):

ヴァイオリン協奏曲水短調 op. 64

イツァーク・パールマン (ヴァイオリン)

ズーピン・メータ指揮イスラエル・フィルハーモニー管弦楽団
(1975.8.25 ザルツブルク祝祭大劇場での Live)

フレデリック・ショパン (1810~ 1849):

前奏曲集 p. 28~ 第 4 番水短調

シプリアン・カツァリス (ピアノ)

(1993.6.5 オーチャードホールでの Live)

ワルツ第 14 番水短調 (遺作)

エフゲニー・キーシン (ピアノ)

(2010.2.27 ワルシャワ・フィルハーモニーホールでの Live)

エドワード・エルガー (1857~ 1934):

チェロ協奏曲水短調 op. 85~ 第 1 楽章、第 4 楽章

アリサ・ワイラースタイン (チェロ)

ダニエル・バレンボイム指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

(2010.5.1 ロンドン、オックスフォード大学・シェルドニアン講堂での Live)

*** 休憩 ***

ヨハン・セバスティアン・バッハ (1685~ 1750):

フルート・ソナタ水短調 BWV .10 34~ 第 1 楽章、第 2 楽章、第 4 楽章から

エマニュエル・パユ (フルート)/トレヴァー・ピノック (チェンバロ)/ジョナサン・マンソン (チェロ)

(2010.5.27 王子ホールでの Live)

ピョートル・チャイコフスキー (1840~ 1893):

交響曲第 5 番水短調 op. 64~ 第 1 楽章、第 2 楽章、第 4 楽章

ヴァレリー・ゲルギエフ指揮ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

(1998.7.26 ザルツブルク祝祭大劇場での Live)